



輝け！北っ子！

時代にあった持続可能な部活動のあり方

～合奏部 小中連携 合同練習会～

北小には現在3つの部活動があります。「剣舞」「合唱」「合奏」です。中学校では当たり前の部活動ですが、小学校で部活動を抱えている学校はあまり多くありません。もちろん、地域差、学校規模等の違いもありますが、二本松市内の学校をみても、北小が最多で、部活動をもたない学校がほとんどです。

他地区・他校においては、コロナ禍の中、部活動の休部・廃部が相次いでいます。部活動に限らず、鼓笛や学校行事なども廃止・削減が進んでいるのは保護者の皆さんもご存じのことかと思えます。部活動について私は、伝統ある活動であること、一度活動をやめてしまえば、今後の復活は相当難しいこと、「地域移行」「練習方法の改善」「大会参加のあり方検討」等工夫次第では時代に合った形での活動も可能なのかも・・・等の考えもあり、休部・廃部等には慎重な立場をとってきました。しかしながら、小学校における部活動に一定のプラス効果は認めるものの、部活動により教職員の中心となる業務（授業・生徒指導・学力向上・学級経営・事務作業等）の時間確保に影響を与えているのは明白で「このままでいい」「これまで通りでいい」とは全く考えていません。なんとかしなくては学校が潰れる、先生方が潰れるというくらいの強い危機感をもっています。社会の変化はもちろん、



外国語科等の新設による教師が担う教科・時数が増えただけでなく、個別最適な学びに向けての準備、会議等もあり、物理的に放課後の時間がとれない現状があります。ICT対応等の追加業務、他校に比べ1クラスの人数が多いという北小の状況等もあります。これまでの部活動のやり方そのままでは立ち行きません。「以前はできていたのだから 今もできるはず」という状況ではありません。



そこで、今年度の合唱部／合奏部については「将来にわたって音楽好きとなる素地を培う」という目標を掲げ、この目標に向かって従来の活動にとらわれずに活動を考える事を職員にはお願いしてあります。そして「大会への参加」「大会で優秀な成績をとる」「高度な技術獲得」は目標ではないことを確認しています。子ども・教職員の負担となる「過度の練習」は避けること、部活動が教職員の中心となる業務を圧迫しないこと等の条件の中で、部活動の目標達成に向け何ができるのか、今後も持続可能な部活動のあり方を模索している状況です。児童数の減少に見合った活動、学校が請け負っている業務のスリム化、働き方改革、勤務時間の適正化、多種多様で幅広い体験の必要性、家庭・地域の教育力の活用・協力体制、子どもも教職員もゆとりある生活、教職員の転勤等があっても揺るがない指導システム、子どもの安全確保、部活動の地域移行等課題は山積みですが、

なんとか折り合いをつけながら取り組んできているところです。



8日、部活動の改革の一つとして多くの講師の先生を招きながら、「小中連携 二本松第一中学校との合同練習会」を実施しました。現在のところ、部活動は少ない練習回数、短い練習時間の中でいかに効果を上げるか、その中でいかに子どもたちに音楽の楽しさを実感させられるかが大きな課題になっています。今回の企画は、小学校としても中学校としても Win & Win の活動でありました。中学生の姿への憧れ、中学校の部活へのつながり、費用の軽減、練習効率、保護者の協力・・・これまでになかった部活動の姿でした。これからの部活動の姿を考えるきっかけになる活動になったのではないかと考えています。

今後の二本松北小学校の部活動のあり方、時代に合った持続可能な部活動のあり方については、まだまだ改革の必要があると思っています。保護者の方々のご意見も聞かせていただければと思っています。

保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください（または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで）～

----- 切り取り線 -----

